

第24回 美術教育研究大会

大会企画テーマ

美術と工芸の力 —特別支援教育を考える—

日時 | 2018年11月4日(日) 9:20 - 16:50 [受付 8:30-]

会場 | 東京藝術大学 美術学部 中央棟

9:30 - 11:40 口頭発表 | 井戸川 敦, 上山 明子, 大野 匠, 鶴野 俊哉, 橘 美智子, 中村 望起子
小川 珠美・中丸 彩希・中村 望起子・野口 徳雄・藤澤 穂奈美・山本 玲央

9:30 - 17:00 展示発表 | 大河原 典子, 大小田 万侑子, 片岡 浩, 西山 大基, 福岡 龍太

13:30 - 14:30 総会 (会員のみ)

14:45 - 16:50 大会企画

基調講演

高見 暁子 氏

文部科学省

生涯政策局生涯学習推進課

障害者学習支援推進室長

鼎談

高見 暁子 氏

本郷 寛 氏 *1

豊福 誠 氏 *2

*1 東京藝術大学

大学院美術研究科

美術教育教授

*2 東京藝術大学

美術学部工芸科教授

美術教育研究会は美術に関する広範な領域の研究発表が行われ、第20回研究大会では、「美術教育—これからの10年を創る」と題して大会企画が行われた。今大会ではそれを継承しつつ特別支援教育に着目したい。

支え合う「共生社会」を国は目指しているが、障がい者と健常者に隔たりがあったり見えないバリアを感じたりする現状がある。それであるなら、それらを乗り越えることが必要であろう。

他方、障がい者の社会進出が徐々に進み、芸術分野、とりわけ美術の分野での圧倒的な魅力あふれる作品を目にすることも多くなった。

折しも学習指導要領の改訂が行われ、教育現場では全面实施に向けて順次取り組みを進めようとしているところである。改訂の重要事項の一つに「パラリンピック開催を手掛かりにした障害者理解・心のバリアフリーのための交流」や、「子供たちの発達支援において、各教科等における学習上の困難に応じた指導の工夫」といった要素が盛り込まれたことで、美術・工芸教育においても特別支援に対する意識改革が必要に迫られてきた。

そこで、美術や工芸はそもそも作品を通してコミュニケーションが図られるものであり、作品そのものが評価されてきたことに加え、美術や工芸は人や社会にある隔たりなども容易に乗り越える力を持っているという視点から、大会企画を「美術と工芸の力—特別支援教育を考える—」とした。

以上の趣旨から、今大会では障がい者学習支援の現状と問題を文部科学省の高見先生に基調講演をいただき、その上で美術や工芸との関わりについて東京藝術大学の本郷先生と豊福先生による鼎談で、それらについての議論を深めるきっかけとしたい。(注) 本研究会は、「障がい」という表記を使用します。

東京藝術大学上野校地へのアクセス

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

【JR】上野駅・鶯谷駅 下車徒歩10分 【京成電鉄】京成上野駅 下車徒歩15分

【地下鉄】銀座線・日比谷線上野駅 下車徒歩15分 / 千代田線・根津駅 下車徒歩約10分



※本研究大会には会員以外の方でも自由に参加できます。

参加希望者は事前に事務局（電話：050-5525-2266）までお申し出下さい。

ご案内はウェブサイトにもございます。美術教育研究会 <http://art-education.org/>

大会参加費 | 3,000円 (学生 | 無料)

懇親会費 | 3,000円 (学生 | 2,000円)

[懇親会] 17:00 - 18:30 学内大浦食堂